

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2013年4月

第23回 ISO/TC 138 国際会議

1. TC 138 の構成

第23回 ISO/TC 138 国際会議（年次大会）が2012年10月22日～10月26日にシドニー/オーストラリアにて開催された。

TC 138（プラスチック管・継手）は、日本が幹事国（TC 議長及び幹事）となっている。（表 1）に構成を示した。TC 138 には SC が 7 個あり各 SC にはいくつかの WG が、また TC 直轄の WG も存在する構成となっている。

（表 1）TC 138 の構成

セクション	内容	幹事国
TC 138	プラスチック管・継手	日本
WG 8*	管の基本寸法	
WG 12*	管更生	
SC 1	廃下水用プラスチック管・継手	フランス
SC 2	給水用プラスチック管・継手	スイス
SC 3	工業用プラスチック管・継手	イタリア
SC 4	ガス供給用プラスチック管・継手	オランダ
SC 5	試験方法・基本規格	オランダ
SC 6	強化プラスチック管・継手	オーストリア
SC 7	プラスチックバルブと補助器具	イタリア

*：TC 138 直轄の WG

SC1～SC4 は管の用途別で区分されており、SC5 は管に関する試験方法、SC6 は強化プラスチックを材料とした管及び試験方法、SC7 は管の周辺器具となっている。

2. TC 138 の活動状況

各 SC の活動状況の指標として、今までの規格発行数及びこの 1 年間の審議件数を（表 2）に示す。

SC2 および SC5 が今までの規格発行総数が多いのに対して、近年、審議件数では SC4（ガス管）が多く活動が活発であることを示している。また、TC 直轄の WG12（管更生）は近年着実に規格開発を進めている。日本は、WG12 に対しては、国際会議への多数の委員派遣等、注力している。SC4 に対しては、近年対応が不十分であったが、今回からは SC4 関係の委員が出席し、積極的に議論に参加できるようになった。

TC 138 は元来欧州中心であり、議論の場を広げる方策の一つとして、国際会議（年次会議）の開催場所を欧州と非欧州とで交互に設定している。2013 年がノルウェー（オスロ）、2014 年がケニヤ（ナイロビ）まで決定しているが、2015 年以降は未定である。開催国の選定は幹事国の責務であり、近い将来、日本開催も視野に入れておく必要がある。

(表 2) 規格数及び審議件数

	規格数	審議件数（定期見直しは除く）
	1)2012-12-31 までの規格発行数	2)1 年間(2012-01-01～12-31)の件数
WG 8*	6	0
WG 12*	10	4
SC 1	36	1
SC 2	76	7
SC 3	9	1
SC 4	42	23
SC 5	86	14
SC 6	33	3
SC 7	11	1

* : TC 138 直轄

3. 第 23 回 TC 138 国際会議の概要

今回の TC138 国際会議では、SC6 関連以外の会議が開催され、出席者は 70 名余りであった。日本からは、議長と幹事を含め、9 名であった。SC6 関連会議はこの会議の 1 ヶ月後、ウィーンにて開催された。

数ある WG 会議のうち年次会議で開催される会議は少数である。多くの WG 会議は必要に応じて欧州にて開催される。規格開発に積極的に参加するにはその WG 会議に出席する必要があるが、地理的条件で日本からの参加は不利な面がある。

TC 直轄の WG12（管更生）会議では、日本は現行 WG12 を SC に昇格させ、日本が幹事国になりたいとの提案を行った。

TC 議長と国際幹事が司会進行を行った全体会議では、次の事項が提案され、今後検討することとなった。

- ①2015 年の TC138 国際会議の開催国については、TC 事務局が今までの開催状況を勘案して、欧州各国に個別に問合せる。
- ②WG12 の SC 昇格が提案された。幹事国として、日本の他に韓国及びオーストリアも幹事国希望の申し出があった。
- ③多くの WG 会議に効率的に出席できるように、WG 会議を集中的に開催する週（WG 会議週間/開催地：欧州）を設定する。
- ④TC 内で表彰制度を設け、TC138 に貢献した人を表彰する。

4. 今後の取り組み

2013 年 1 月に、国内 TC138 委員会が開催され、今回の TC138 国際会議の報告をすると共に、今後の日本の対応を議論した。特に、WG12 の SC 昇格については、日本は幹事国（及び議長）の獲得に向けて他国との交渉及び体制作りを進めていく必要がある。

以上